

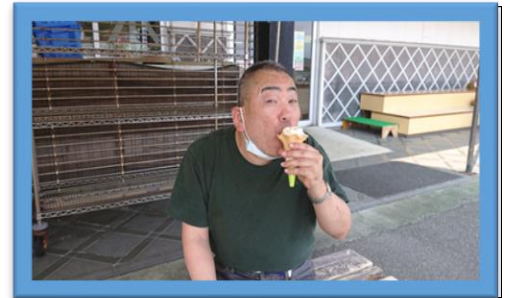
テーマ

EYさんが落ち着いた生活を送る為には ～コロナでの外出自粛を乗り切る～

支援の背景

【E. Yさん 52歳 男性】

E. Yさんは、知的障害・てんかん発作を持つ男性である。物や外出・帰省に対する欲求が強く多様である。また、自分の要求が通らなかつたりすると物を壊したり、無断外出に発展する事がある。今回は新型コロナウイルスによる外出・帰省の自粛が政府よりあったことで、2ヶ月に1回の帰省を置こう事で情緒の安定を図っていたことができないという背景から対応が必要と考えられた。



外出時の一コマ

わかったこと

担当職員以外とも関りを持つことで楽しめる気概が増えた様で笑顔が多く見られた。帰省の確認もあるが、関りを持つことで安定している様に見られた。また、対応を始める前と後とでは不適応行動も記録として少なくなっている事も見えてきた。

支援の内容

帰省自粛により2ヶ月に1回の帰省が出来なくなったため、支援員との関りで気分を盛り上げ、帰省をしなくても楽しめるという事を感じて頂くために、基本的な部分の統一した支援が出来る様に、関わり方などの対応マニュアルを作成し対応を行うことで、担当だけでなく他の職員とも楽しく関りが持てる様にすることで帰省が出来ないというベクトルを変えていく事で安定を図る。また、帰省が緩和したころには外出支援等も取り入れる。

これから

今後、新型コロナウイルスに諸々の自粛がどうなっていくかは不明であるが、同様の対応を行いつつ、帰省の緩和がされた際には帰省を取り入れていき、家族との関係が切れぬ様になるなどの支援を行っていく必要もある。

テーマの選定

帰省と外出を一月ごと交互に入れていた

帰省自粛があり、帰省や外出が難しくなった

安定して行っていたことが出来ない
情緒不安定になる可能性あり
早急に対応を考える必要がある

目標設定

- 不貞寝
- 服薬拒否
- 食事拒否
- 無断外出
- 物破壊

現状調査の結果、左記の様な行動は少ないことがわかった。
今後、左記の行動が出てくることを考えられる。落ち着いた生活を送れるように支援を考え取り組んでいく。

不安定時の行動の現状維持を目指す

効果の確認 I

